

南陽市自分ごと化会議 2025 第3回 議事概要

日時	2025年12月6日(土) 9時00分～12時00分
場所	沖郷公民館 多目的ホール
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聰

・委員意見 →市役所(回答・補足等) →コーディネーター(補足等)

概 要

【今回の流れ】

1. 第2回開催後からの新たな気付き・アイデア
2. 全3回会議の感想

【委員自由発言(前半)】

- ・生ごみ処理機に関するチラシが入っていたので製品を調べてみた。ちょっと怪しい。
→本会議のテーマがごみ問題になったのをきっかけに個人的に購入。実際に機械と処理後のゴミを持ってきた。約3時間で完全乾燥する。油分は蒸発しないので下のトレイにたまるようになっている。生ごみの量を減らせるし、臭くない。1人暮らしで週1回のゴミ出しが10日に1回になった。
- ・ペットボトルキャップと缶のプルタブのリサイクルのメリットは?
→缶のプルタブは社会福祉協議会で回収しているため把握していないが、ペットボトルキャップは市でのみ回収している。回収したものは宮城県にある回収業者に引き渡し、最終的にはポリオワクチンになり世界中の子どもたちへ届けられる。(1kg10円)
(南陽市実績)R4:665kg R5:856kg R6:1020kg R7.11現在:1005kg
- ・思ったより利益が少ない。ペットボトルの指定袋にキャップ専用のポケットを付けると良いのでは。
→逗子市では福祉分野で入れ歯の金属を回収している。キャップのように集めると収益になるものはあるが、その後の処理が大変で余計にコストがかかってしまう可能性もある。
- ・車の中で発生したごみはコンビニで捨てている。ほとんど燃えるごみで分別していない。
- ・50～60代の先生が編み物で作った洋服をほどいてまた使うとか、今着ている洋服も极限まで使えるという話をしていた。世代間の違いからか共感は出来なかった。
- ・若い人は古いものに興味を持つ人が多い。
- ・保育施設では、家庭で不要な未使用品・消費できない食品等を回収しバザーを開催し、売上金は保育施設の収益にしている。
- ・兄弟や親戚の人のおさがりをもらう。好みではないものは売り、逆に好みのものを安く手に入れている。
- ・おもてなし文化が根強く、家では使わない詰め合わせセットをよくもらう。第2回会議を経て、初めてスーパーのフードドライブ回収 BOX に入ってきた。
- ・お彼岸、お中元、お歳暮、お年始の時期はもらう。
→これまで何回かごみ問題をテーマにしてきた中で「おもてなし文化」について初めて出てきた意見だった。この地域特有の文化。

- ・お祭りのゴミ(やきそばのパック、かき氷の容器など)が気になる。
 - ・マルシェ等のイベントで発生したごみは、各自持ち帰りにすることが多い。
 - ・学校で使っていた物品やジャージなどには氏名が入っているためリユースできない。卒業生の数だけいると思うと問題と感じる。
 - ・指定カバン、上履き、算数ボックス(おはじき等)、絵具、書道セット、リコーダー等は押し入れにしまいがち。いずれはゴミになる。
- 自治体で回収しているところもある。
- ・氏名が入っている学校の指定ジャージで下校していた。犯罪につながってしまうことが懸念される。見えないところに氏名を書けばいいのではないか。
 - ・数年前に押入れを掃除したとき古い黒電話2台出てきた。いずれごみになると思いながらもその時は押し入れに戻したが、今回の自分ごと化会議をきっかけに思い出し改めて調べたところ、国鉄時代の鉄道電話であり大変貴重なものでメディアにも取り上げられた。ゴミにならず光を浴びた。
 - ・勤務する工場では、鉄板を古くなった洋服の布切れで拭いている。
 - ・いらなくなつたものを集めて必要な人に配ることはできるのか。
- ものは集まると思うが、集めたものを整理しなければいけない。そういった取組をしている組織もあるがなかなか難しい。上手い仕組みがあればアイデアは広がる。

【中間整理】

- ・市民・行政の一方が得する・損するにならないよう、「社会全体で得する」という考え方を基盤に議論。
 - ・「ルールを厳しくすると人が来ない」という第1回会議で出た意見から、「無理なく」「長く続けられる」「市民全体で得する」という方向性を保ちながら、ごみの分別や減量、リサイクルの様々な問題点やアイデアを提示。
 - ・委員は、南陽市のごみ排出量が置賜地域でワースト1位であること、最終処分場の維持コストや再利用可能な資源を無駄にしている現状を深刻に捉え、ごみ問題に向き合う姿勢が深まった(自分ごと化された)。
- これらを多くの市民へ伝えるにはどうしたら良いか？

【委員自由発言(後半)】周知方法の検討

- ・今回の会議で最終処分場の現状を知った。建設費用がどんどん高くなっていること、ごみの量を減らせば焼却残渣も減り最終処分場を長く使えることでその分の予算を他の事業に有効的に使えることなど、現状を知らない人が大勢いるはず。各ゴミ収集場所で現状だけでも提示して知らせると良いのでは。
- ・市報に掲載されていた自分ごと化会議の記事を家族と見た。生ごみ処理機についての印象が良かった。市報掲載は有効的ではないか。
- ・「あれやれ」「これやるな」のべからず集では市民の意識が浸透しにくいため、より具体的で身近な具体例を提示するなど工夫が必要。
- ・先日の不燃ごみの日、回収されなかつたごみ袋があった。中には新聞紙に包まれた蛍光灯が入っていた。回収不可の理由は袋に入っていたからであった(本来は指定袋には入れず

新聞紙に包んで出すだけで良い)。分別表が分かりにくいのではないか。わかりやすい言葉の表現で記載してほしい。

➡逗子市では分別アプリを導入している。

・アプリで確認できるのは便利。全員が使えるわけではないが…。

・回覧板のバインダーに主な注意点を明記すると良いのでは。

➡不燃ごみは長井クリーンセンターにて手作業で破碎選別される。

・不燃ごみの指定袋が大きすぎる。袋の中をいっぱいにしたいと思うと捨てられない。

➡不燃ごみ袋 (大)45ℓ、55円 (小)30ℓ、37円

・小中学生のポスターコンクールは抽象的になりがち。事前に情報を提供した上で絵に落とし込んでもらった方が良いのでは。

・アプリや SNS による動画投稿など、今の時代に合ったものを活用すべき。専門機関に委託すると費用が多額になるのが懸念されるが、住民や学生から募るのはどうか。